

## 04 年度数値分析カルテ

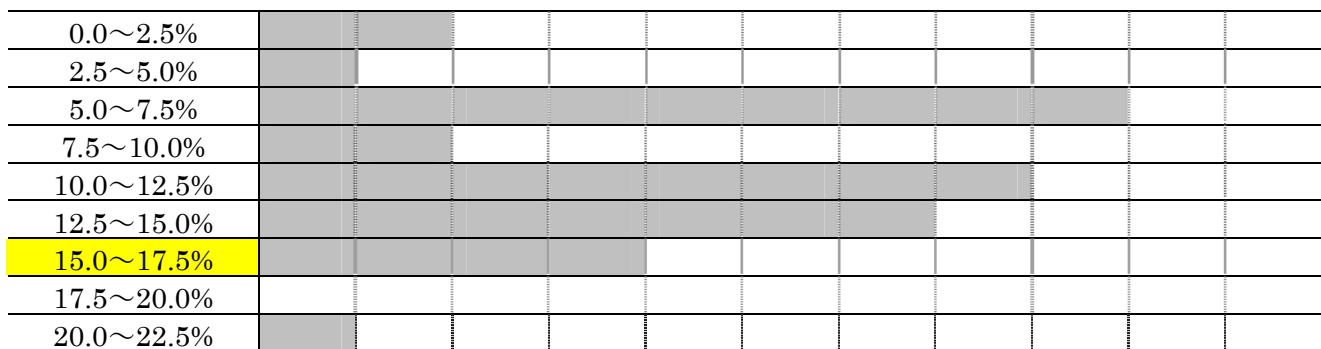
2006.8

南魚沼市

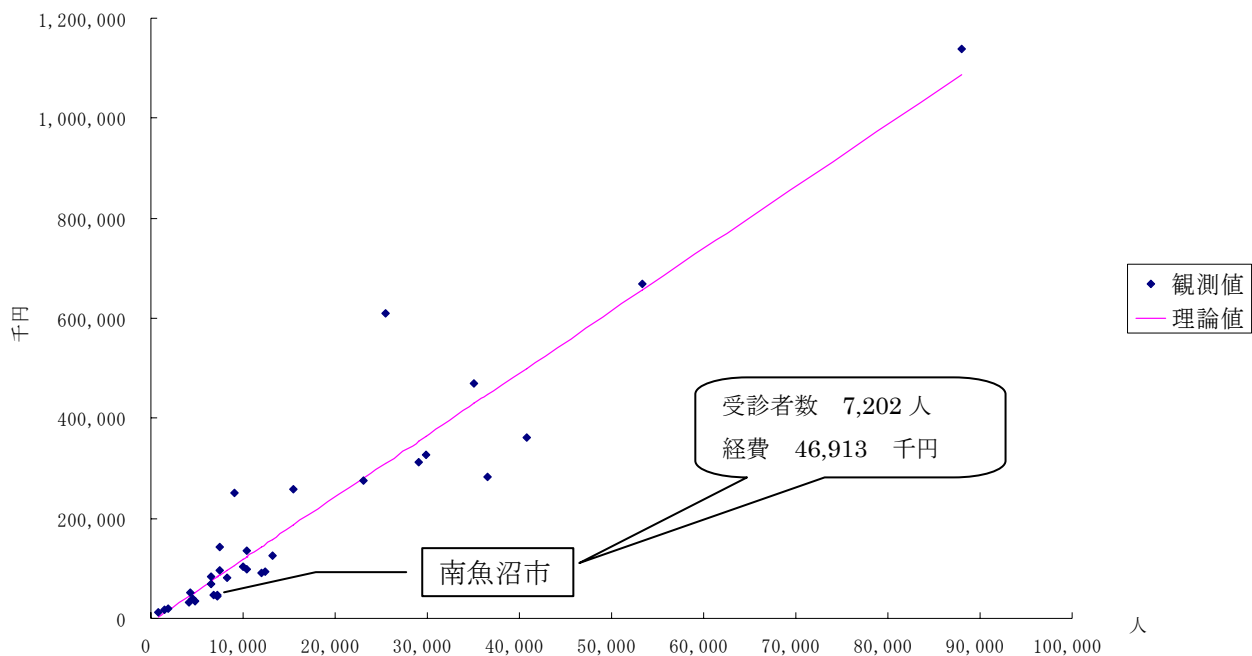
都市行政評価ネットワーク会議

基本政策第1分野：健康で安心な社会基盤の整備

政策	健康増進
施策と測定対象	健康診査の推進（成人基本健康診査サービス）
基本指標値の特徴	単純な40歳以上人口比率は56.0%で32市平均を少し上回り、他方、40歳以上人口に占める国保加入者率は51.5%と平均をかなり下回る。この理由については確認されることが必要か。
結果指標値の特徴	総人口に対する受診者率は16.6%と、最も高いクラスに属す。
成果指標値の特徴	(要精検者率を成果指標とする考え方には再考が必要なため略)
コスト指標値の特徴	受診者1人あたりコストは、32市から抽出された理論直線上の目安より低く抑えられている。
全般的評価と課題	高い受診率とコストの抑え込みは、町制段階から公立病院を運営してきた成果と見られ、数値に関する限りベスト・プラクティス都市に属すと見られる。
施策改善の方向	現状を持続することが肝要と考えられる。



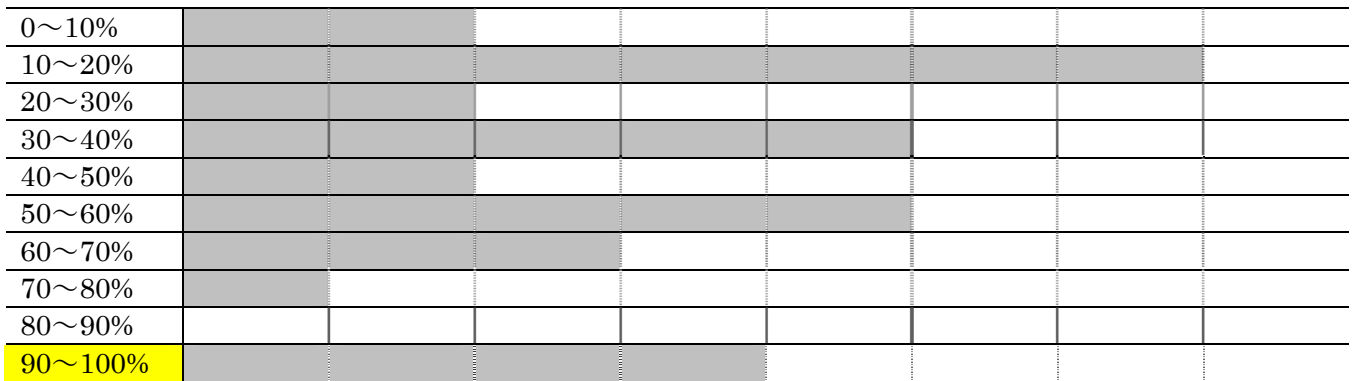
グラフ1 総人口に対する受診者率ヒストグラムにおける南魚沼市の位置



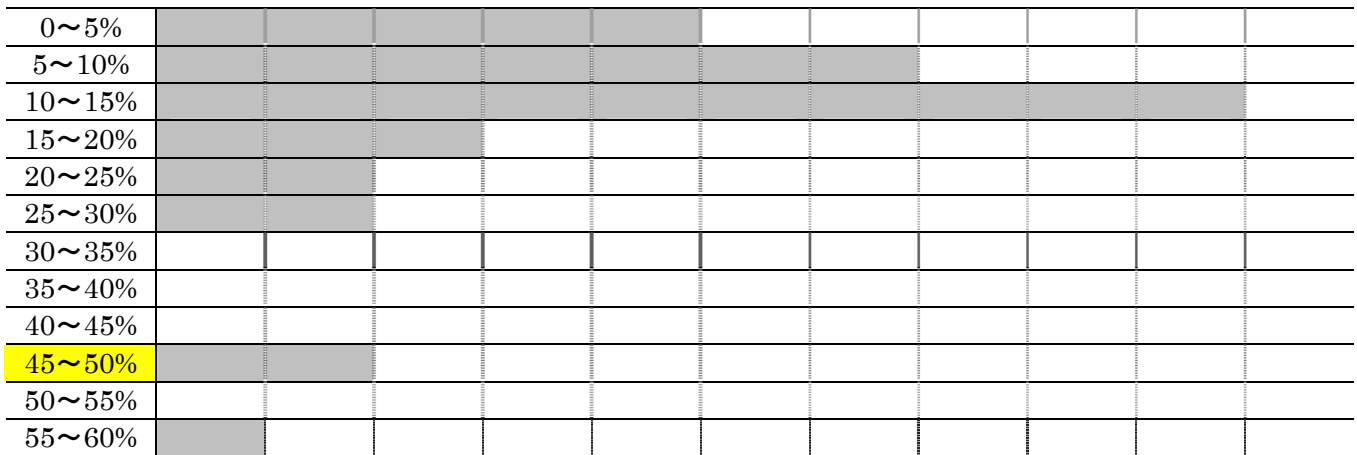
グラフ2 基本健康診査関係事業費と受診者の相関における南魚沼市の位置

南魚沼

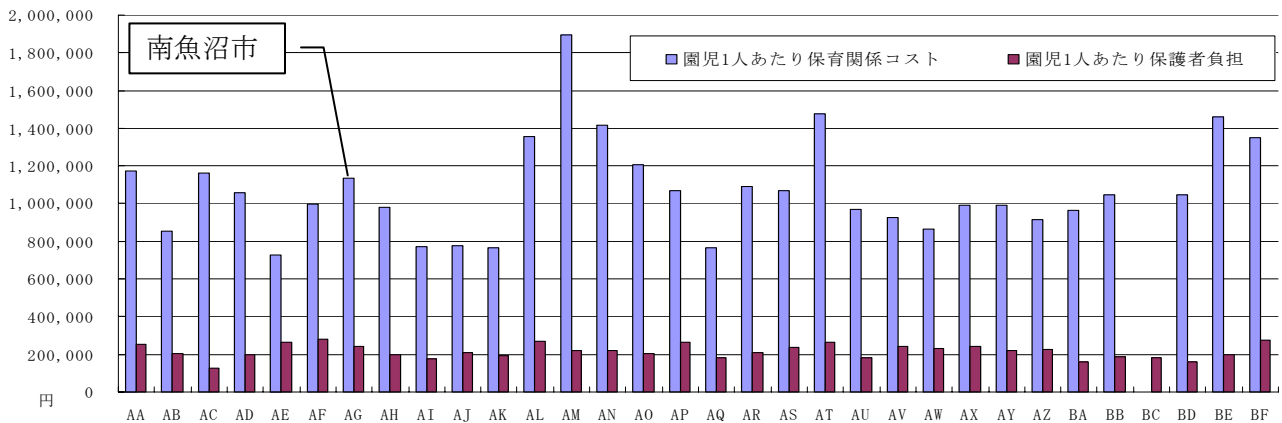
政策	子育て支援
施策と測定対象	保育サービスの充実（保育所運営）
基本指標値の特徴	要保育児童率は3.3%で、32都市の平均1.8%の倍近い。原因確認の要あり。
結果指標値の特徴	保育の実施率100%。市立保育園の児童受入率92.0%。
成果指標値の特徴	待機率ゼロ。延長保育利用率44.7%は、非常に高いクラスに属す。
コスト指標値の特徴	園児1人あたりコストは1,136,853円で、平均値1,073,503円と同水準。
全般的評価と課題	市立保育園児童受入率と延長保育利用率の高さを考えると、保育の実施、コスト両面でベスト・プラクティス都市に属すと見られる。
施策改善の方向	厳しい財政事情を考えると、民間活力の導入、民営化がさらに求められる。川西市の事例等が参考になると見られる。



グラフ3 市立保育園児童受入率ヒストグラムにおける南魚沼市の位置



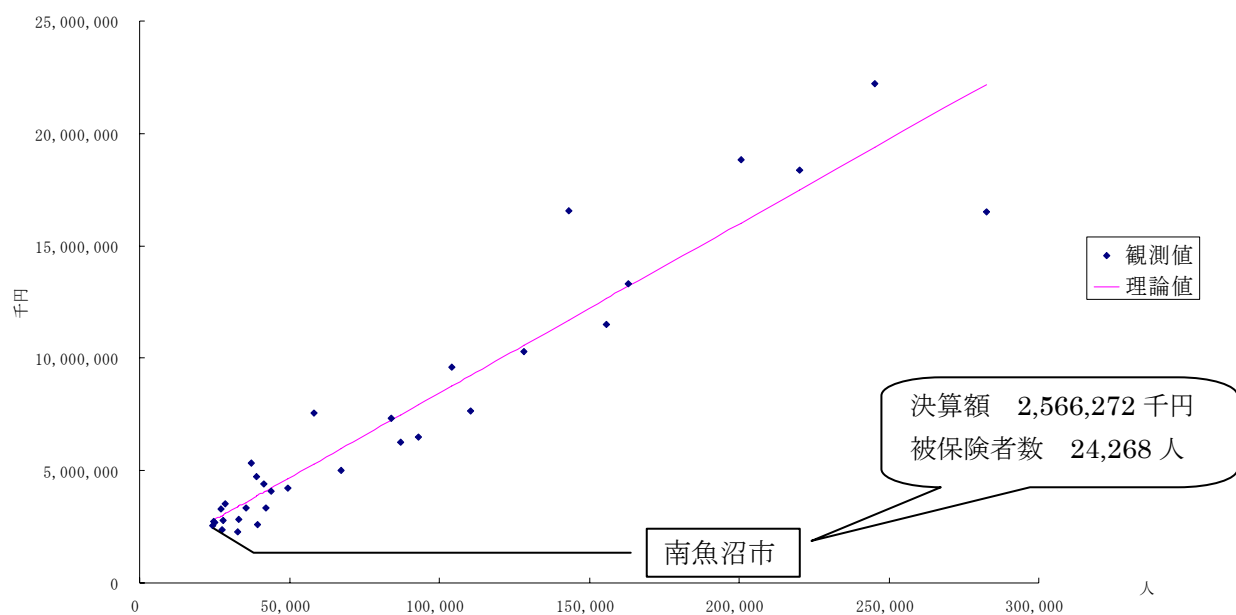
グラフ4 延長保育利用率ヒストグラムにおける南魚沼市の位置



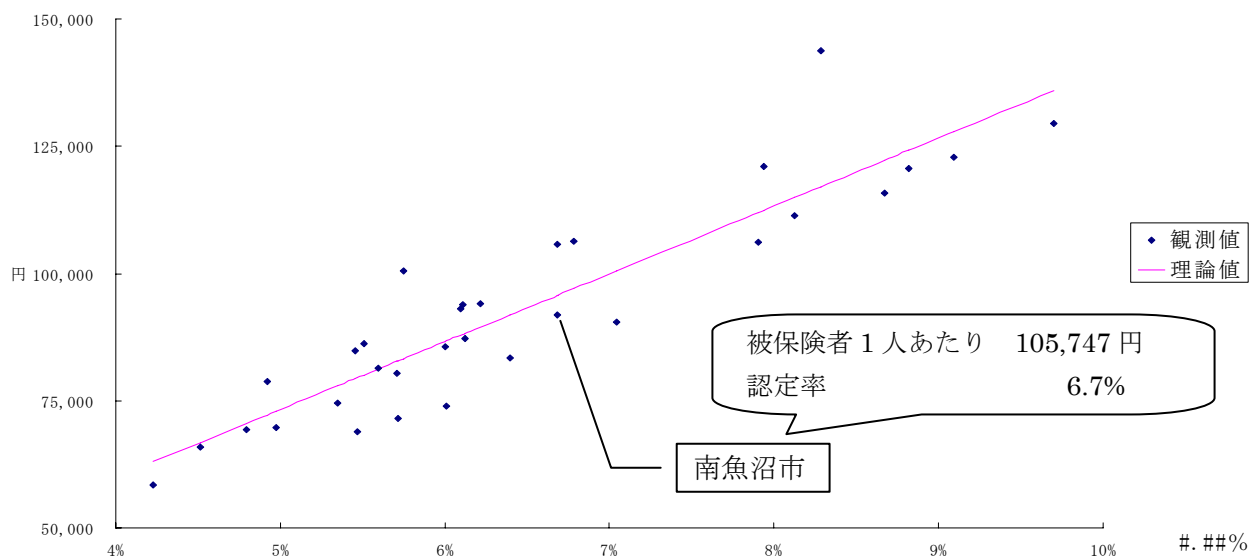
グラフ5 園児1人あたり保育関係コスト・保護者負担における南魚沼市の位置

園児1人あたり保育関係コスト 1,136,843円 園児1人あたり保護者負担 241,117円

政策	高齢者支援
施策と測定対象	介護保険制度の適正な運用
基本指標値の特徴	高齢化率 23.4%は、32 市の中では高い部類に属す。(平均 20.6%、最高 28.6%)
結果指標値の特徴	要介護・要支援認定率は 6.7%で、高齢化率に比べれば低く抑えられている。(32 市の平均 6.5%と同水準。最高は 9.7%)
成果指標値の特徴	介護率は在宅 68.2%、施設 19.5%で、在宅は 32 市の中で最も高い。施設は平均 18.7%を上回る程度。在宅介護が積極的に進められている都市である。
コスト指標値の特徴	介護保険被保険者 1 人あたりコストは理論直線上に乗っており、一般会計からの繰出率も 14.8%と、平均 14.7%と同率。適正な運営がなされている。
全般的評価と課題	高い高齢化率に対して要介護・要支援認定率は低く抑え、在宅介護を積極的に進めており、コストも適正で、頑張っている都市と言える。
施策改善の方向	厳しい財政事情の中で現状水準を維持すること自体がベスト・プラクティス。



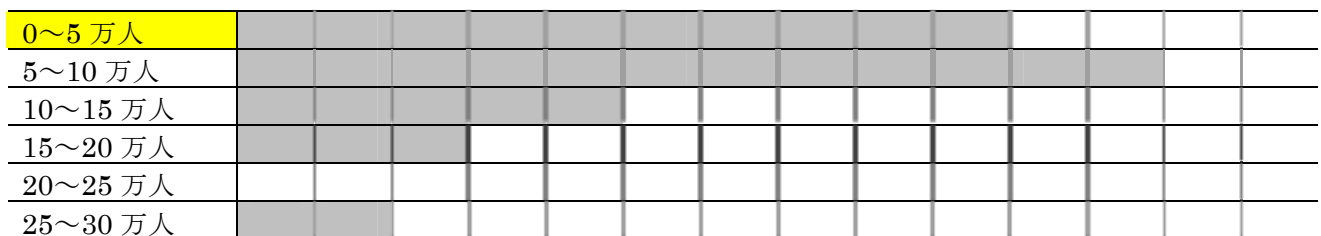
グラフ 6 介護保険特別会計決算額と介護保険被保険者数との相関における南魚沼市の位置



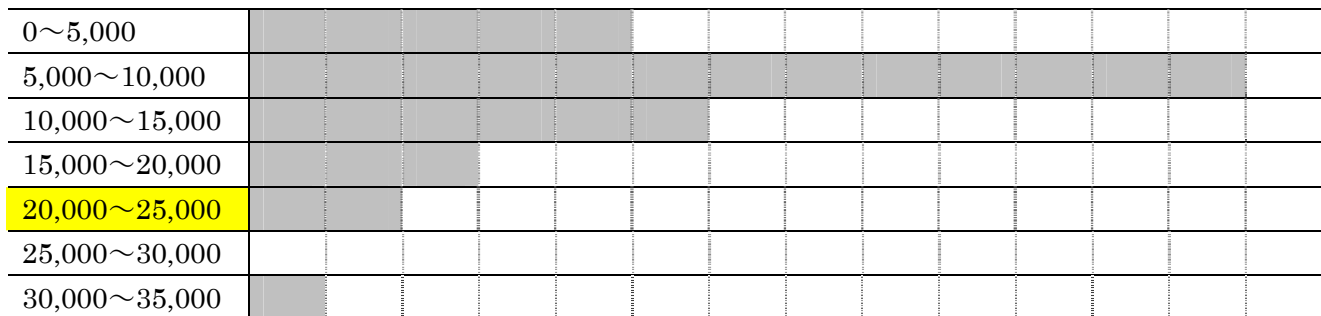
グラフ 7 介護保険被保険者 1 人あたりコストと要介護・要支援認定率との相関における南魚沼市の位置



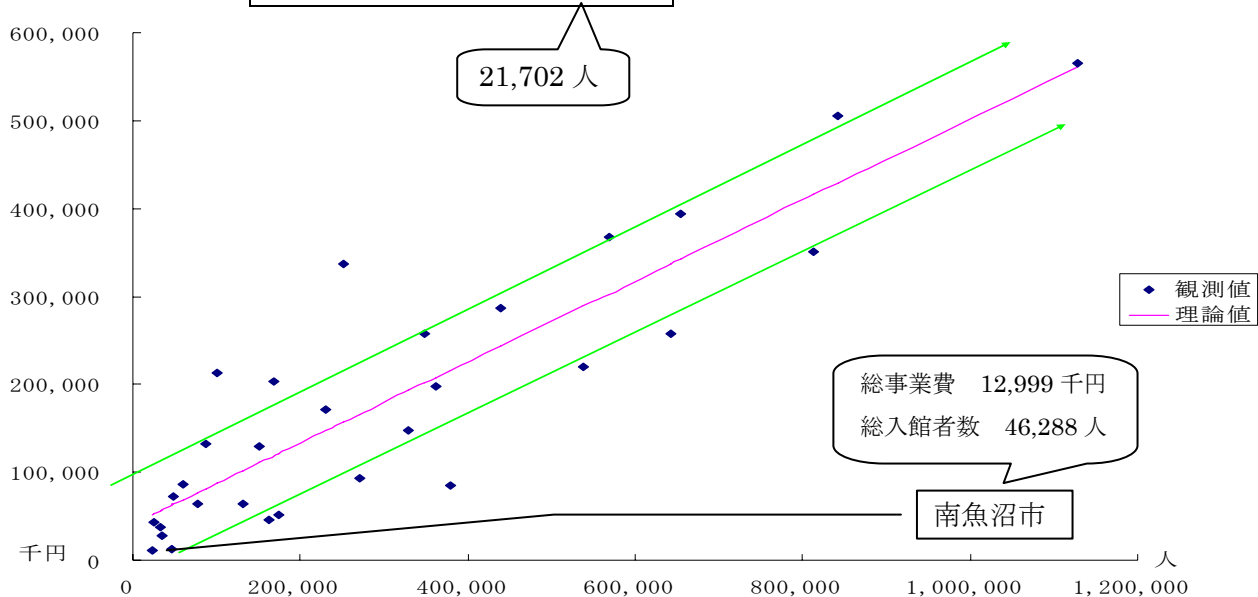
政策	生涯学習推進
施策と測定対象	図書館サービスの充実（図書館サービス）
基本指標値の特徴	1市1館の配置のため、図書館1館あたりサービス人口43,404人は市人口。
結果指標値の特徴	市民1人あたり蔵書・ソフト数1.5冊は、32都市平均2.3冊をかなり下回る。司書有資格者比率は100%だが、職員総数は2名で、職員1人平均サービス人口は20,000人を超えている。手薄感は否めない。
成果指標値の特徴	利用者率106.6%は、数値の得られた30都市の平均189.7%をかなり下回る。利用者1人あたり年間図書等貸出数1.6冊も平均2.5冊をかなり下回っている。
コスト指標値の特徴	コストそのものは低いが、サービス水準も高くなく、コストを評価しにくい。
全般的評価と課題	スポーツ施設の運営に比べると、いっそうの充実が求められる。
施策改善の方向	いっそうの充実が求められるが、厳しい財政事情のなか、コスト・人的資源の投入が難しいとすれば、大学院大学である国際大学をはじめ複数の高等教育機関が立地しているなどの地域性を活用した施策環境整備策が必要と見られる。



グラフ11 図書館1館あたり平均サービス人口ヒストグラムにおける南魚沼市の位置

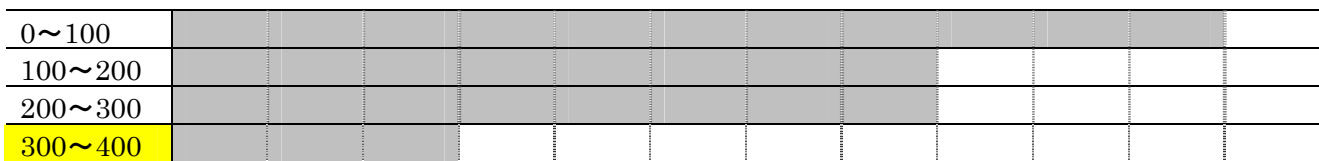


グラフ12 職員1人あたり平均サービス人口ヒストグラムにおける南魚沼市の位置

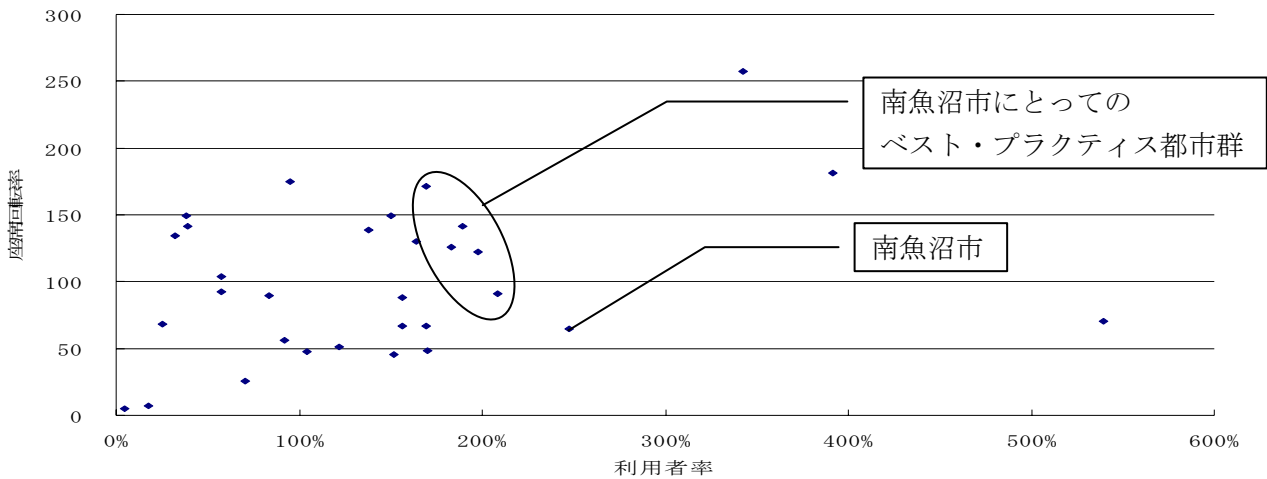


グラフ13 図書館管理運営総事業費と総入館者数との相関における南魚沼市の位置

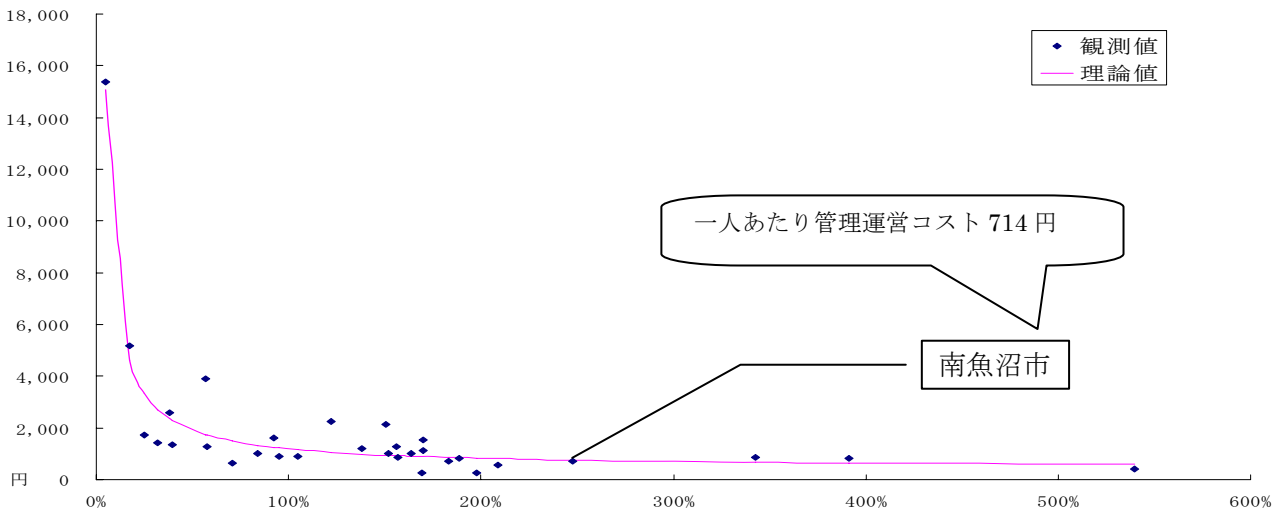
政策	芸術文化活動支援
施策と測定対象	芸術文化活動参加機会の充実（文化会館事業）
基本指標値の特徴	1会館あたりサービス人口は人口の半分の21,702人。
結果指標値の特徴	市民10,000人あたり座席数は381.5席で、最多のグループに属す。
成果指標値の特徴	利用者率247.5%は、数値の得られた31都市のうち上位に位置する。しかし、座席回転率は64.9回で、週1回は満席だが2回は埋まらない。
コスト指標値の特徴	利用者1人あたりコストは理論直線上に乗っており、適正に運営されている。
全般的評価と課題	利用者率、コスト等はベターだが、座席回転率が低く、供給過剰状態。
施策改善の方向	供給過剰気味のホール利用を活性化させるため、都市規模が比較的類似し、座席回転率が良い大村市、北広島市、日向市などに学ぶことは有益と見られる。



グラフ 14 市民10,000人あたり座席数ヒストグラムにおける南魚沼市の位置(700を超える都市1市あり)



グラフ 15 利用者率と座席回転率における南魚沼市の位置



グラフ 16 利用者率と利用者1人あたり管理運営コストとの相関における南魚沼市の位置

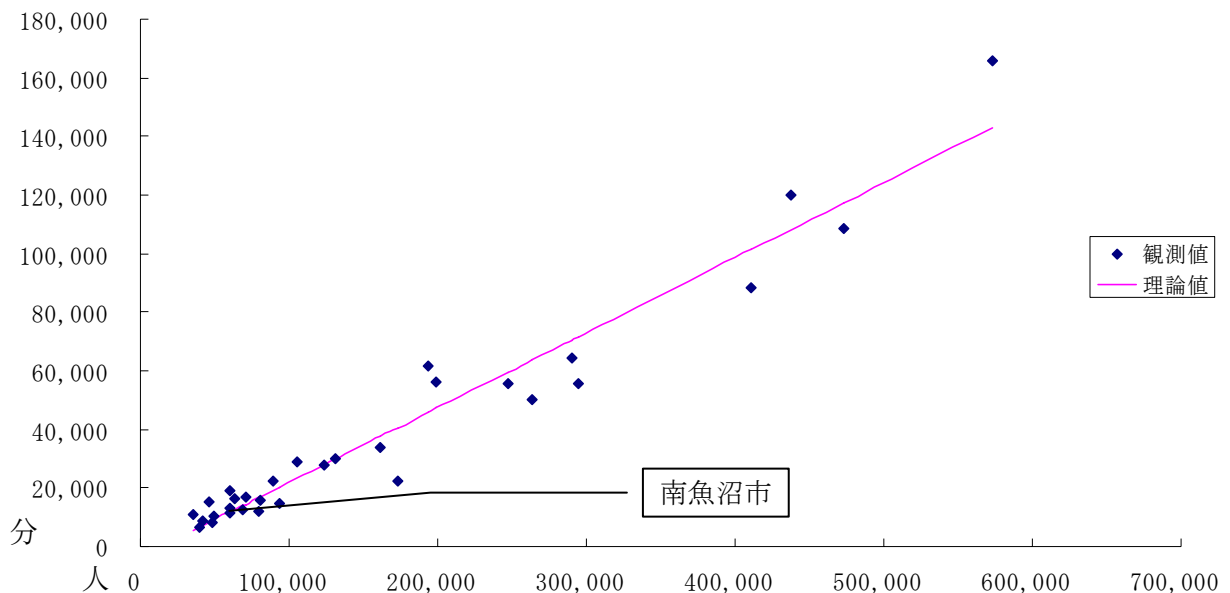




政策	消防・救急
施策と測定対象	救命救助体制の充実（救急搬送サービス）
基本指標値の特徴	救急車 1 台あたり平均面積は 194.9 平方キロで 31 都市のうち最大。 付記事項によれば、99 年度に高規格救急車を導入し救急救命士も配置済み。
結果指標値の特徴	市民 10,000 人あたり救急車出動回数 340.7 回は 31 市平均 370.0 回と同水準。 救急車 1 日 1 台あたり出動回数 2.0 回は 31 都市平均 2.9 回をかなり下回る。
成果指標値の特徴	人口（広域連合の数値）と所要総時間との相関では理論直線上に乗っているが、 救急車平均到着時間 7.4 分は、31 都市のうち 5 番目に時間がかかっている。
コスト指標値の特徴	コストは比較的低い値が出されている。
全般的評価と課題	救急車 1 日 1 台あたり出動回数は少なく、所要時間も理論直線上、コストも比較的 低い値だが、豪雪地帯で平均面積も広く（可住地面積で再吟味する必要があるが）、 実際の到着時間が 7 分を超えてしまっていることへの対策が必要。
施策改善の方向	雪の季節とそれ以外とに分けての詳細な分析を行い、比較的にかかっている平均 到着時間で問題が生じていないかを検討することが施策改善の一步か。

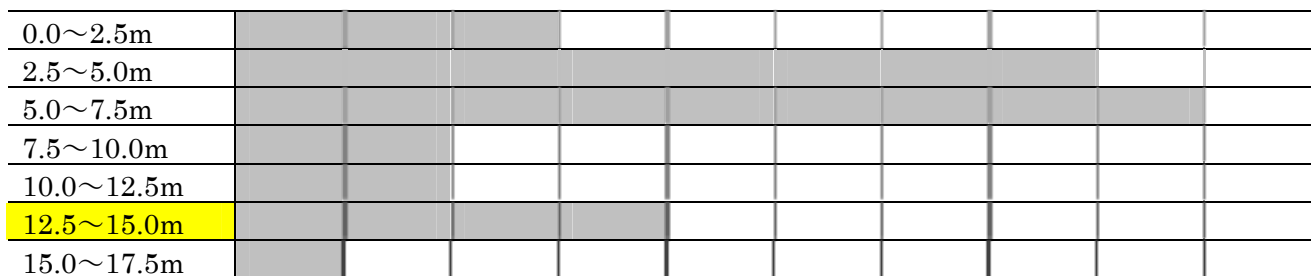
0～1 回										
1～2 回										
2～3 回										
3～4 回										
4～5 回										
5～6 回										
6～7 回										
7～8 回										
8～9 回										

グラフ 20 救急車 1 台 1 日あたり出動回数ヒストグラムにおける南魚沼市の位置

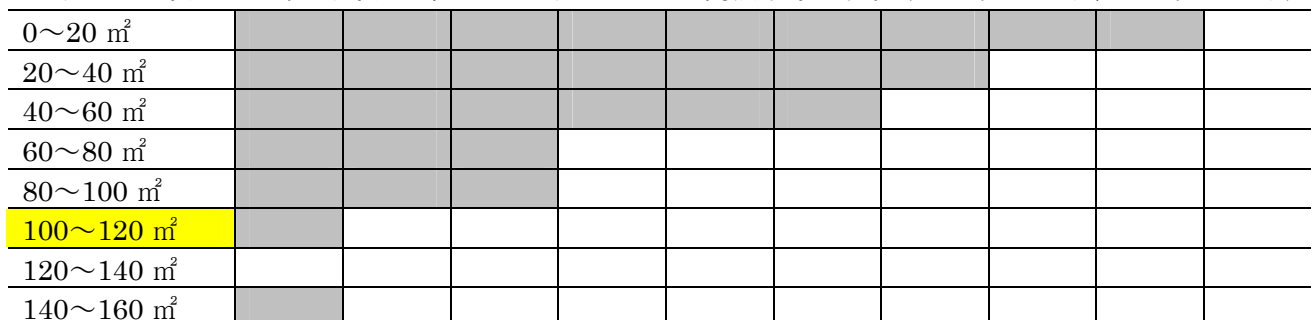


グラフ 21 到着までの年間所要総時間と人口との相関における南魚沼市の位置

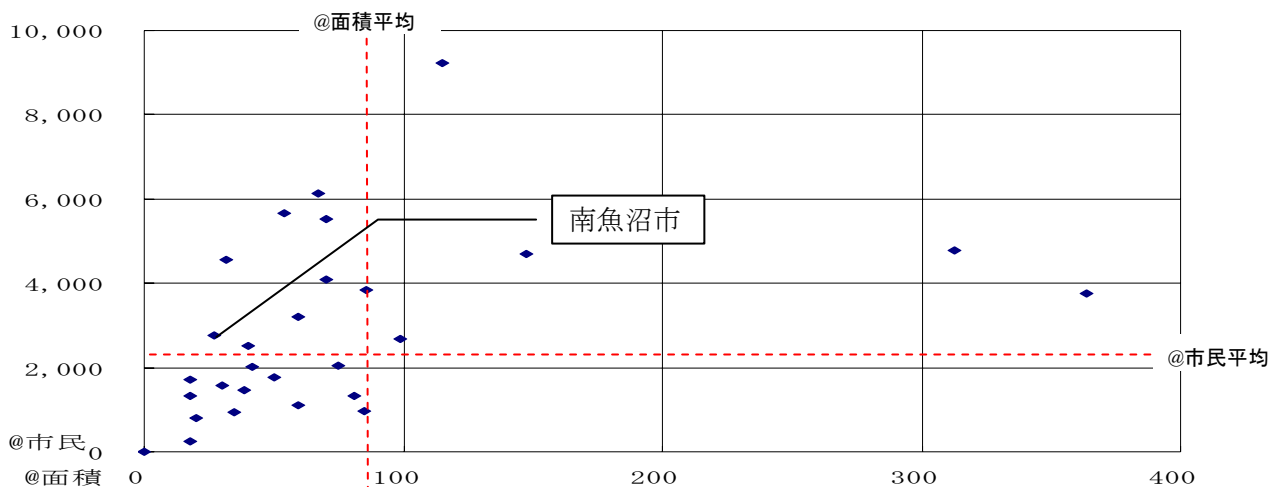
政策	都市の持続的発展
施策と測定対象	都市交通基盤整備（道路の維持・管理及び公共交通利用促進）
基本指標値の特徴	市道・県道・国道の割合は、道路延長で 76:19:5、道路面積で 66:29:5。数値の得られた 19～25 都市の平均値よりも、市道割合が 10 ポイントずつ低い。
結果指標値の特徴	市道に限定した市民 1 人あたり道路延長は 14.7m で、30 都市の平均 7.9m の倍。道路面積は 101.2 m <sup>2</sup> で、30 都市の平均 49.0 m <sup>2</sup> のやはり倍。
成果指標値の特徴	（公共交通利用率等を成果指標とする考え方には再考が必要なため略）
コスト指標値の特徴	除雪費用を除いた市道の維持管理コストは、面積あたりでは 27 円と、数値の得られた都市の平均値 78 円を大きく下回っているが、市民 1 人あたりでは 2,751 円で平均値 2,950 円とほぼ同額。全体的にコストは低く抑えられている。
全般的評価と課題	人口密度の低さもあって市道延長・面積ともに平均値を大きく上回っているが、維持・管理コストは低く抑えられており、望ましい状況と見られる。
施策改善の方向	現状の維持・管理コストを持続すること自体がベスト・プラクティス。



グラフ 22 市民 1 人あたり市道延長ヒストグラムにおける南魚沼市の位置 (20m 以上 1 市、25m 以上 1 市)



グラフ 23 市民 1 人あたり市道面積ヒストグラムにおける南魚沼市の位置

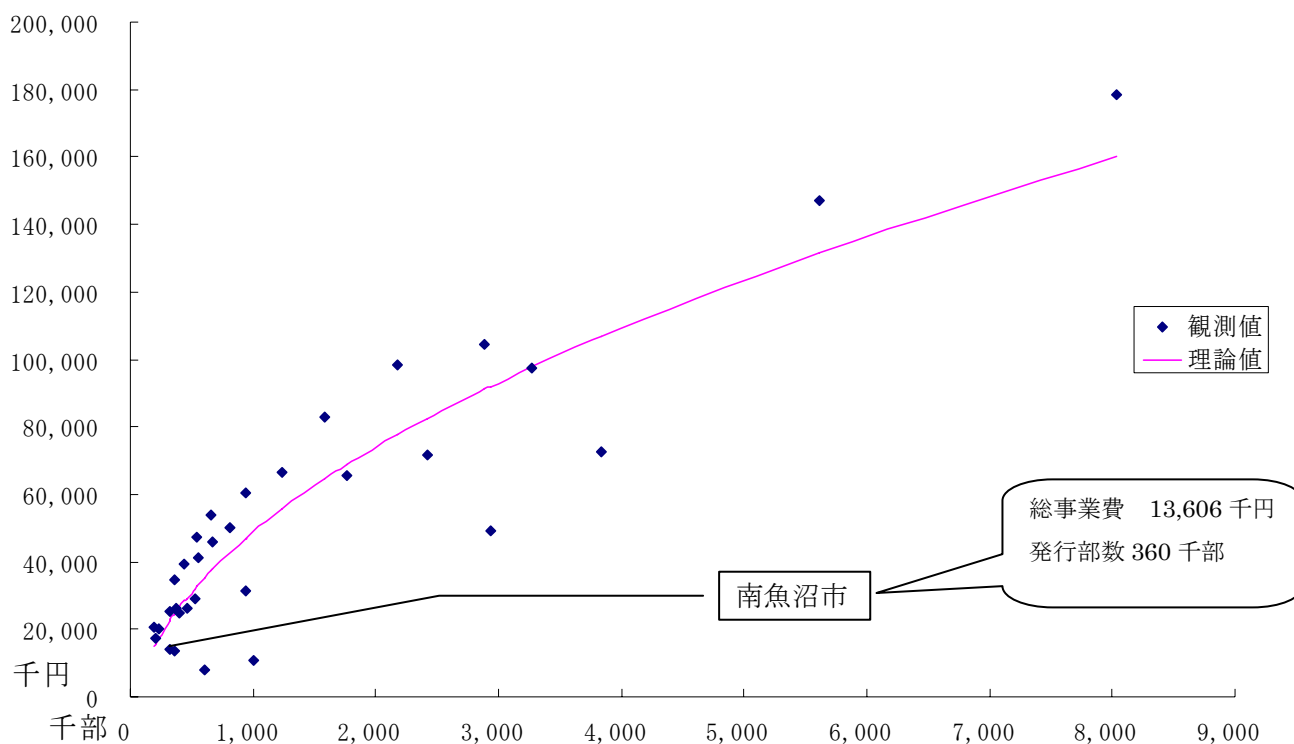


グラフ 24 除雪費用を除く維持管理費用の市民 1 人あたりと面積あたりの相関における南魚沼市の位置

市民一人あたり 2,751 円	1 m <sup>2</sup> あたり 27 円
-----------------	---------------------------

## 基本政策第4分野：市民と行政の協働社会の形成

政策	情報公開
施策と測定対象	情報公表・提供の充実（広報・ホームページ等サービス）
基本指標値の特徴	テレビ・ラジオでの情報提供あり。年間 60.8 時間。
結果指標値の特徴	1 世帯あたりの広報発行部数は、最も類例の多い月 2 回タイプ
成果指標値の特徴	市民 1 人あたりホームページ・アクセス数は 10.9 回で、多い部類に属す。
コスト指標値の特徴	1 世帯あたり公報発行コストは 1,068 円で、32 都市の平均値 997 円と同水準で、やや高めだが、理論曲線の下側に位置し、理論上は低く抑えられている。 市民 1 人あたりホームページ制作コストは 13 円で、アクセス数と比較すると、高いコスト・パフォーマンスを示している。
全般的評価と課題	広報事業は平均的。ホームページ事業はベスト・プラクティス都市に属す。
施策改善の方向	広報発行費用で生じている小規模都市ゆえの割高克服のために、類似規模の都市でコストをさらに抑えている安中市などに学ぶことは有益と見られる。

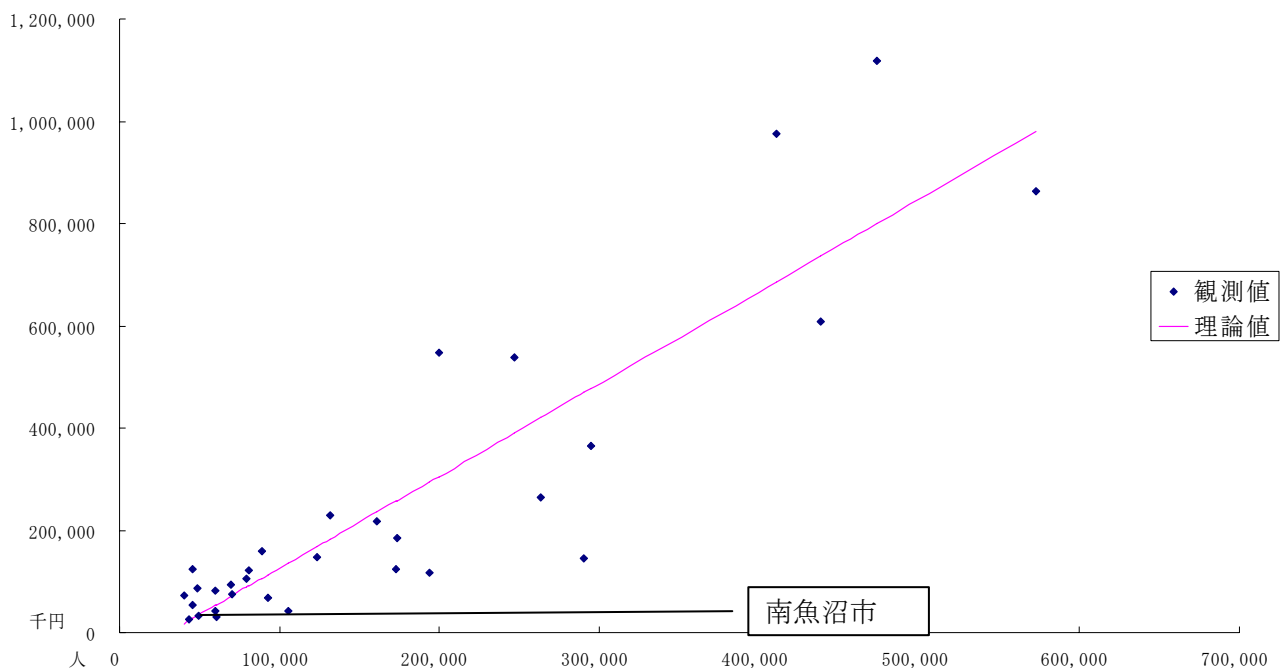


グラフ 25 広報発行部数と広報発行総事業費との相関における南魚沼市の位置

政策	対人サービス
施策と測定対象	諸証明交付サービス（住民票等諸証明交付サービス）
基本指標値の特徴	交付窓口 1 件あたり平均サービス人口は 21,702 人で、数値を得られた 31 と市平均 28,546 人をやや下回る程度。
結果指標値の特徴	市民 1 人あたり交付件数は 1.1 件で、31 都市平均 1.4 件をやや下回る。
成果指標値の特徴	（交付 1 件あたり平均待ち時間を成果指標とするには再考が必要なため略）
コスト指標値の特徴	諸証明発行コストは、発行総事業と交付件数とが形作る理論直線上に乗っており、実際のコストも 1 件あたり 534 円と低く抑えられている。手数料収入で 3 分の 2 が賄われており、経営的には適正。
全般的評価と課題	全般的に諸証明交付サービスはベスト・プラクティス都市に属すと見られる。
施策改善の方向	コスト等の面ではベスト・プラクティス都市に属すと見られるので、平均待ち時間の計測を試みて、さらなる改善課題を模索されることが望まれる。

0～10,000	
10,000～20,000	
20,000～30,000	
30,000～40,000	
40,000～50,000	
50,000～60,000	
60,000～70,000	

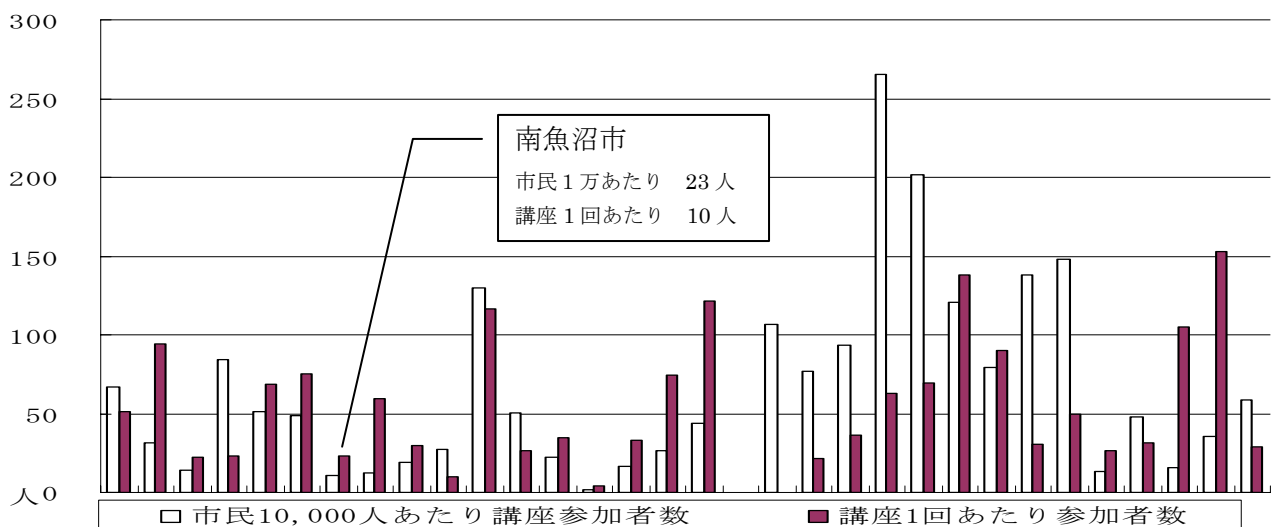
グラフ 26 諸証明等交付窓口 1 件あたり平均サービス人口ヒストグラムにおける南魚沼市の位置 (130,000 人超に 1 市)



グラフ 27 住民票等諸証明交付総事業費と人口との相関における南魚沼市の位置

32,373 千円

政策	協働基盤形成
施策と測定対象	男女共同参画社会の形成（男女共同参画社会づくりの普及・啓発）
基本指標値の特徴	制度整備では担当部署が設定されているのみ。
結果指標値の特徴	市民 10,000 人あたり推進講座は 0.5 回で、少ない部類に属す。
成果指標値の特徴	市民 10,000 人あたり講座参加人数 10.6 人、講座 1 回あたり参加人数は 23.0 人とも 32 市平均（64.2 人、53.5 人）をかなり下回っている。 審議会への女性登用率は 22.0% で、平均 24.3% とほぼ同水準。
コスト指標値の特徴	市民 1 人あたり推進講座事業コストは 1 円、参加者 1 人あたり推進講座事業コストは 1,304 円で、32 市平均を大きく下回っている。
全般的評価と課題	残念ながら、男女共同参画社会づくりの政策的展開は遅れている。
施策改善の方向	事業費を多少増やしてでも、制度整備と推進事業が火急の課題となっている。



グラフ 28 講座参加者数（市民 10,000 人あたりと講座 1 回あたり）における南魚沼市の位置

10～15%	
15～20%	
20～25%	
25～30%	
30～35%	
35～40%	

グラフ 29 審議会等への女性登用率ヒストグラムにおける南魚沼市の位置

0～25	
25～50	
50～75	
75～100	
100～125	
125～150	
150～175	
175～200	
200～225	
225～250	

グラフ 30 市民 1 人あたり男女共同参画推進講座等コスト・ヒストグラムにおける南魚沼市の位置（475 超が 1 市）